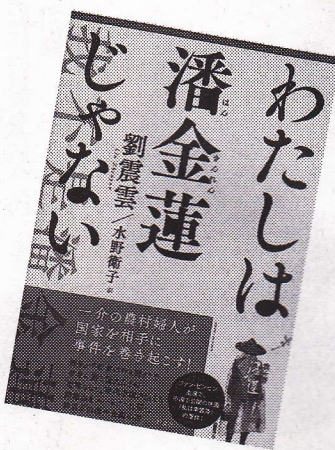


出産後 高齢者施設と 大野秀樹

減・節税にも繋がる。こうして、二〇一四年度から厚生労働省は、母子についてはフィナンシャルの「ネウボウ」をモデルにして、妊娠・出産包括で支援、かもがわ出版。いずれかを満たす母子が対象となる。(一)家族から産後計特殊出生率を向上させることも繋がるかもしれない。(二)社会医療法人財団大和会常務理事・杏林大学名誉教授)

劉震雲 著
水野衛子 訳
▶わたしは潘金蓮じゃない
8・20刊 四六判320頁 本体2600円
彩流社



払われる。彼女は裁判長、県長と次々に上級の幹部へ訴えるが、いずれも追い払われ、市長には留置場へ入れられてしまふ。せめて謝罪の言葉が欲しいと元の夫を訪ねたら、衆人の前で、初夜のお前が処女ではなかった、稀代の淫婦潘金蓮だと罵られる始末だ。

こんな侮辱を受けては生きていられない。李雪蓮は身の潔白を証明するため北京へ訴えに行く。そして首尾よく全中国人民代表大会を開催中の人民大会堂に紛れ込むが、すぐに捕まってしまう。だが、思ひもかけない逆転劇が待っていた。彼女の話を聞いた指導者が会議で講話をし、一人の農婦の告訴を邪魔してこまめに追いつめたことを、地方政治の腐敗の象徴として取り上げたのだ。おかげで李雪蓮の告訴に関わった裁判官や役人はすべて免職になった。

それ以来、李雪蓮は毎年、元夫を告訴し続けている。受け付けられた試しはないが、県の役人たちは戦々恐々としていた。そして二十年目の今年、李雪蓮は急に告訴をしないと宣言した。それがまた波紋を呼んだ。李雪蓮は体何をするつもりだ。また北京へ直訴に行くのではないのか。役人たちはあれこれ探りを入

通勤に特化した京王沿線の「なるほど！」を紹介 電車との新しい付き合い方を教えてくれる一冊 下沼英由

『小田急沿線の近現代史』の著者によるシリーズ第二作。今回のターゲットは京王沿線だ。ポイントは、前著同様に「京王線」ではなく「京王沿線」というところ。つまり本書は、鉄道そのものではなく、その「沿線」に光を当てているのである。ますびくくりしたのは、「京王」とは「東京の」京と、八王子の「王」の二文字から来ている」ということ。知らなかった……。というように、普段乗っている沿線には、こんな「なるほど！」を連発することになるだろう。

お相手は習近平じゃない

ドタバタ劇はもちろんデフォルメされたものだが、ここには確かにありのままの中国が描かれている

千野拓政

海外の小説を読む楽しみは、斬新な実験や深遠な思想が詰まった文学の最先端の姿に触れることだけではない。その国の庶民の、暮らしの機微や心のひだを覗き見すること、それに勝るとも劣らない喜びだ。そしてその点なら、劉震雲はレイチだ。一九九一年の出世作『鶏の毛いっぱい』(原題…『一地鸡毛』)邦訳、井口晃『季刊中国現代小説』(第二号)以来その作風は変わらない。むしろ物語はますますドタバタの度を増し、諧謔と風刺が満載になっている。

前作『盗みは人のためならず』(原題『我叫刘跃进』、二〇〇七年、馬標文監督によって映画化)では、全財産の入ったバッグを盗まれ、その犯人を探そうに、偶然、要人の痴態の画像の入ったUSBメモリを手にして、ヤクザ

やマフィアや警察から追われることになった男の悲喜劇が描かれた。今度は訴訟にかられる農村の女と、それに振り回される政治家たちの大騒動だ。

事件は、農婦の李雪蓮が元の夫秦玉河を訴えたいと、県の裁判官を訪ねて来るころから始まる。ややこしい話だった。なんでも、二人目の子供を身もって産むことにしたが、たまたま産んで夫がクビになるので、偽装離婚することにした。ところが子供を産んで戻ってきたら、夫はさっさと他の女と結婚していた。だから名誉を取り戻すため、復讐した上でもう一度離婚したい、というのだ。

裁判官は訴えを受け付けたが、離婚の手続きしている以上どうにもならない。そこで李雪蓮はその上の裁判所専属委員を訪ねるが、体よく追

はれる。彼女は裁判長、県長と次々に上級の幹部へ訴えるが、いずれも追い払われ、市長には留置場へ入れられてしまふ。せめて謝罪の言葉が欲しいと元の夫を訪ねたら、衆人の前で、初夜のお前が処女ではなかった、稀代の淫婦潘金蓮だと罵られる始末だ。

こんな侮辱を受けては生きていられない。李雪蓮は身の潔白を証明するため北京へ訴えに行く。そして首尾よく全中国人民代表大会を開催中の人民大会堂に紛れ込むが、すぐに捕まってしまう。だが、思ひもかけない逆転劇が待っていた。彼女の話を聞いた指導者が会議で講話をし、一人の農婦の告訴を邪魔してこまめに追いつめたことを、地方政治の腐敗の象徴として取り上げたのだ。おかげで李雪蓮の告訴に関わった裁判官や役人はすべて免職になった。

それ以来、李雪蓮は毎年、元夫を告訴し続けている。受け付けられた試しはないが、県の役人たちは戦々恐々としていた。そして二十年目の今年、李雪蓮は急に告訴をしないと宣言した。それがまた波紋を呼んだ。李雪蓮は体何をするつもりだ。また北京へ直訴に行くのではないのか。役人たちはあれこれ探りを入

- event
- ▼「京都の凸凹を歩く」(青幻舎 刊行記念トークイベント「京都の名所と聖地を凸凹目線で行く」)
 - 日時 6月24日(土) 19時〜(開場18時半)
 - 会場 丸善京都本店地下2階丸善カフェ
 - 登壇者 梅林秀行(京都高)
 - 定員 80名(申し込み先着順)
 - 参加費 1000円(ワンドリンク付き)
 - 参加方法 八重洲ブックセンター本店で対象書籍(『ピンボ』)本体2200円、5月27日発売 購入後、1階カフェコーナーにて参加整理券を配布(電話での予約後、当日購入でも可)
 - 問合せ 同店(TEL03-3281-8201)